



言葉凸凹 加法混色と減法混色

「加法混色」と「減法混色」という、輝度が「+」か「-」による混色の様相がある。

JISの用語の定義では加法混色は「2種類以上の色刺激が網膜の同じ箇所と同時に若しくは急速に交互に入射して、または目で分解できない程度に入り混じった形で入射して生じる色刺激の混合」とされ、「減法混色」は「色フィルター又はその他の吸収媒質の重ね合わせによって別の色が生じること」としている。

「加法混色」はテレビ画面で見る色の状態であり、「減法混色」はフィルムの映写による映画の画面で見る色の状態である。

いずれも原色があり、テレビは赤・緑・青(RGB)であり、映画は赤・緑・青の補色に当たるシアン・マゼンタ・イエロー(CMY)である。最少の色数で無限大の色数の混色を行う技術が確立されている。

カラー印刷は、CMYにブラックを加えた4色印刷が主流であるが、黒を加えたのは、文字や黒髪の印刷に便利であるという理由である。

インキ面が重なって見える減法混色の色と、目で分解できないほど細かな網点の混在による加法混色によって色が再現されているのがカラー印刷の色である。(永田泰弘)

●図書紹介

KENZO TAKADA ファッションデザイン画アーカイブス

本書はパリで活躍した日本人デザイナー高田賢三の直筆デザイン画集、及び代表的コレクション、ショーの写真集である。また、彼の人生の紹介も有る。

構成と内容は次の通り。「始めに」、前書きである。「デザイン画」、内容は直筆のデザイン画集で300点以上が収録されている。「人生」、彼の生い立ちと人生の写真集である。「ウェディングドレス」、デザイン画、制作過程、コレクションの写真集。「1989年自由」、展覧会の写真集である。「最後のショー」、ラストショーの写真集である。

圧巻は何と言っても彼の直筆デザイン画で、色鉛筆などを使って書かれている。ところどころに生地見本が置かれていたり、色メモが書かれていたりして、賢三オリジナルの色遣いを直に見ることが出来る。

書誌情報：KENZO TAKADA 高田賢三ファッションデザイン画アーカイブス、2021年2月28日初版発行、著者 増井和子、翻訳後藤由美、発行所 株式会社 玄光社、定価 7000円。原書はフランス語で、本書はその日本語版。英語版も有る。(木本晴夫)

色彩教材研・オンライン講座聴講者募集

第5回色彩教材研究会オンライン講座の聴講者を募集しています。必要な教材です。

◆主題：「錯視と色彩」

◆日時：2022年3月19日(土)

13:30～15:00 (ZOOMのオンライン)

◆申込は明日迄に、下記よりご登録下さい。

<https://forms.gle/5XhjGZkZr5T2ecqR7>

◆参加料：学会員と研究会準会員は無料。

◆講師：北岡明佳(きたおか・あきよし)氏
立命館大学総合心理学部教授。

◆講演要旨：本講演では、色の錯視を検討することで、色彩を考える。通常、混色を錯視とは言わないが、並置混色であればいくらか錯視的であろうか。並置混色は加法混色だけであると考え人が多いと思うが、減法混色もあるし、それと加法混色を接続する中間的な並置混色もあることを示す。さらに、それらとムンカー錯視との関係を明らかにし、並置混色の中に加算的色変換による色の錯視(強力な色の対比の錯視あるいは色の恒常性の錯視)を実装できることを示す。

◆一般の方は聴講料1,000円。振込期限：3月11日(金)。振込をもって申込完了です。

振込先：ゆうちょ銀行 00180-6-395882
日本色彩学会色彩教材研究会宛 (永田泰弘)